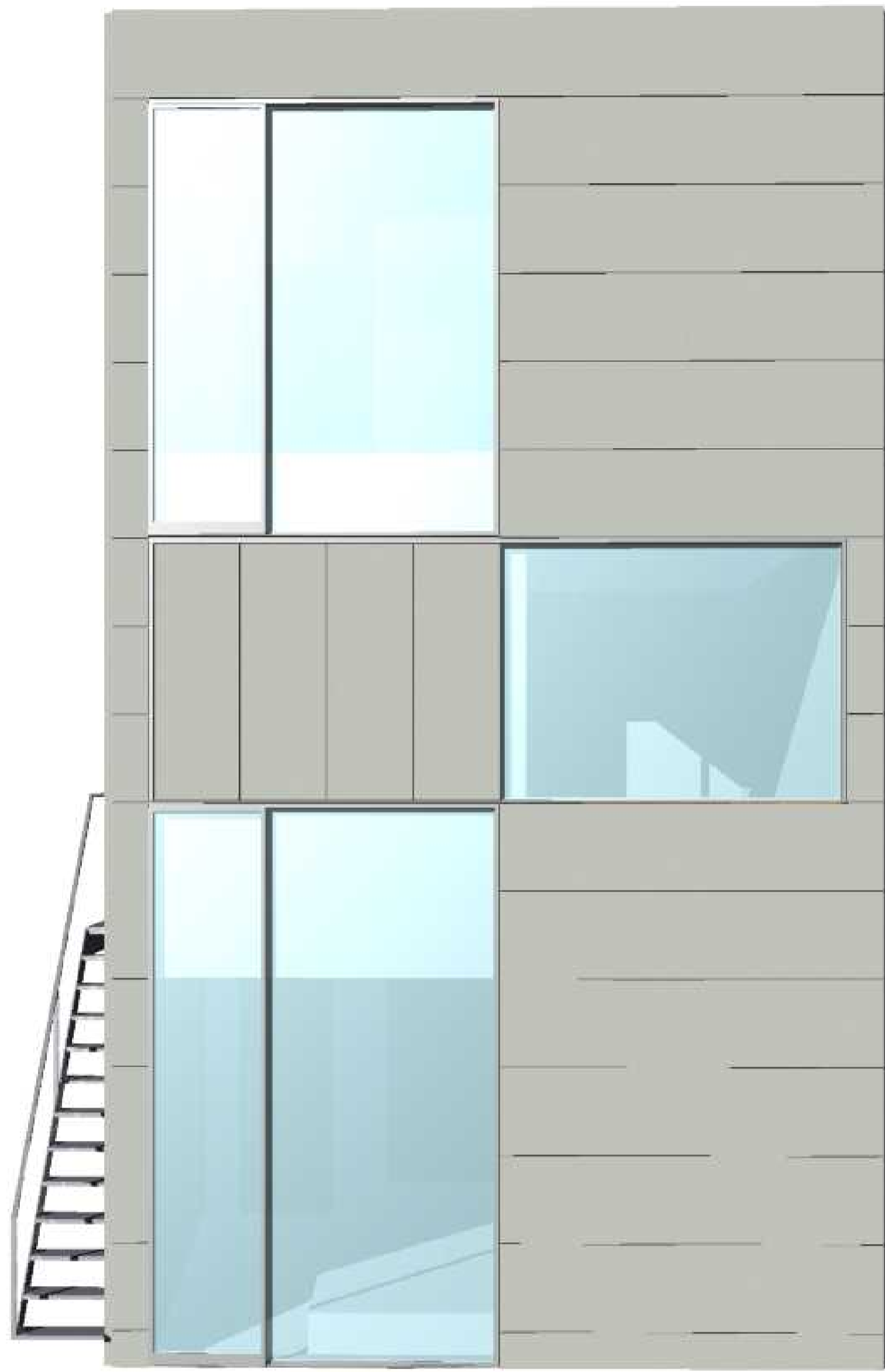


A COMPACT TOWER 08/2



敷地前面の幹線道路の拡幅で、敷地がバツサリと削られてしまった。住み慣れた土地に住み続けられる可能性を見出すことが求められた。近くに親族はいるが、この家は高齢者の独り暮らしになるため主要動線はホームエレベーター。階段は屋外に必要最小限なものを設けている。一階は予備室、二階が主室、三階が寝室、二階は座敷と板の間で段差が450mm。段差の境目がダイニングテーブルになっていて、椅子からも座敷からも利用可能。450mmの空間は収納になっているが、これは座敷から板の間に降りるとき、いちいち立ち上がりなくても、座敷から足を下せばそのまま立ち上がることができるように考えた結果である。

敷地は削られてしまっても生活は充実したものになるようにしたい。

